

ターミナル駅における旅客案内サインの体系化に関する研究*

A Study on Public Sign Systems for a Passenger Information of Terminal Stations

赤瀬達三**, 為国孝敏***, 家田 仁****

By Tatsuzo AKASE, Takatoshi TAMEKUNI and Hitoshi IEDA

1. 研究目的

複数の鉄道路線が結節するわが国のターミナル駅では、鉄道のほかにバスやタクシー、レンタカー等其他の交通手段が結節し、また地下街や駅ビル、百貨店などの商業施設が複合して、さらに駅周辺に商業施設、業務施設、あるいは行政施設などが多数集積しているのが一般的である。

複合化の進展したこのようなターミナル駅で利用者は、通いながれた一部の通勤者などを除いて、視覚表示あるいは音声放送などの情報（インフォメーション）がなければ身動きをとることができない状況に置かれている。通勤者においても異常事態が発生した時など頼りにするのは情報である。

視覚情報の過半を受け持つ設備としてビジュアルサイン（視覚表示器あるいは情報表示盤）がある。そのサインに表示されている情報（メッセージ）が、特定の鉄道施設情報に限られたり、また駅の複合性や都市との関係性に関する情報が希薄になっている傾向が顕著であることなど、必ずしも体系立てて整備されていないために、多くのターミナル駅で多数の利用者が適切な情報を得ることができず、移動の困難に遭遇している。

この研究は、ターミナル駅における旅客案内サインを都市計画的な視点から考察して体系化を行うことにより、広く利用者に有効なサインシステムを構築提案し、ターミナル駅の利便性及び快適性の向上に寄与することを目的としている。この小論ではその研究の導入として、大都市ターミナル駅の現状調査を行い、今後の課題を提起する。

2. 研究の範囲

（1）旅客案内サイン

本来サインとは、文字どおり「しるし」、「符号」または「合図」の意味で、一義的にはモノではなく情報（メッセージ）であるから、記号化され情報として作用する全ての実体をサインと呼ぶことができる。視覚的なサインのほかに、音のサイン、香りのサイン、触覚のサインなども考えられる。

この基本的な認識のうえに立ってこの研究では、今日のわが国で一般的に理解されている範囲に限定して、利用者の案内（インフォメーション）に供するために視覚情報を空間に表示する装置類を「旅客案内サイン」と呼称することとする。

（2）空間的な領域

一般的に鉄道駅の単位空間は、駅出入口、ラチ外コンコース、改札口廻り、ラチ内コンコース、連絡通路、ホームなどに分類される。この研究では、結節する複数路線の相互の乗り継ぎ関係や、ターミナル内に複合されている諸施設及び駅周辺の都市施設との空間的な関係性に注目して、ターミナル駅の駅出入口から各鉄道路線の改札口に至るラチ外コンコースの空間領域を、直接的な考察の対象とする。

（3）現状調査の概要

現状調査対象駅は、首都圏及び関西圏を代表する池袋ターミナル駅と、難波ターミナル駅の2駅とした。調査方法は、対象範囲の現地踏査を行い、主動線に表示されている主な情報内容（メッセージ）を記録した。整理方法は、各ターミナル駅のエリア別に表示されている情報内容を分類列記して比較検討の資料とした。調査時期は1995年11月から1996年2月の間である。

*キーワード：ターミナル計画 空間設計

** 非会員 工学 黎アザイン株式会社代表

〒102 東京都千代田区六番町6-20-804, Tel.03-3263-6151, Fax.03-3263-7695

*** 正会員 工博 足利工業大学講師 土木工学科

**** 正会員 工博 東京大学教授 工学部土木工学科

3. 現状調査

(1) 池袋ターミナル駅

池袋ターミナル駅には、図-1に示すとおり4事業者7線が結節している。

このターミナルのサインの特徴は、事業者別に東武はブルー、西武は黒、J Rは白・緑・黄、営団は白・黄と表示面色彩が区分されていることである。構内を横断的に移動する利用者にとって、同じ様式で情報を得ることができないから利用しにくい。

表示されている情報内容はサイン設置事業者毎の

エリア別にその事業者関連情報に限られる傾向が強い。東武エリアで西武関連情報を、西武エリアで東武関連情報をそれぞれ得ることはできない。

表示語句はエリア相互に整合されていない。例えば「南口」という名称を東武では駅出入口名に、J Rでは改札口名に用いている。また西武のいう「南口」は東武のいう「西口」方向を指している。

ターミナルの構内案内や、駅周辺案内、街の広域案内、交通ネットワーク案内など、都市拠点として全体的な関係性を示す情報は、営団地下鉄を除くエリアでは眼にすることができない。



写真1 東武鉄道コンコース (エリアA)



写真2 J R東日本コンコース (エリアB)



写真3 西武鉄道コンコース (エリアC)



写真4 営団地下鉄コンコース (エリアD)

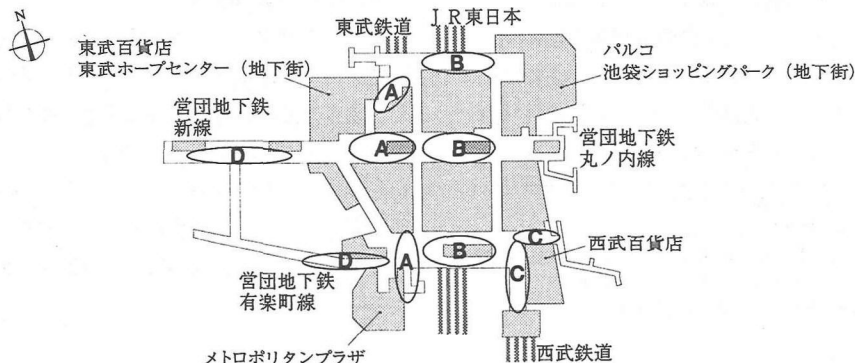


図-1 池袋ターミナル駅構成図

(2) 難波ターミナル駅

難波ターミナル駅には、図-2に示すとおり4事業者8路線が結節している。

このターミナル駅も池袋ターミナル駅と同様に、エリア毎でサインに表示する情報内容と様式が異なっている。

南海電車エリアのサインでは、特に図形表現された案内の表示が充実している。他の鉄道エリアでは自社関連情報に片寄っているのに比べて、このエリアの案内図は公共性が高く、都市域全般の情報を対等に扱って表示している。

大阪市営地下鉄エリアのサインは東京営団のそれ

と典型的で、駅出入口番号表示をホームから駅出入口まで徹底していることに特徴がある。駅周辺案内には都市施設の表記が少なく、有効性に疑問がある。

複合商業施設なんばウォークは、鉄道のりかえのルート上にあり、実質的に自由通路の性格を持っている。公共性への配慮も行き届いており鉄道のりば情報は片寄りなく表示されている。地上の街区と地下の構内の関係を天地2枚組で示した案内地図が設置されている。

J R西日本エリアは、空間的にも情報表示上も連続的な複合駅として位置づけられていなかった。

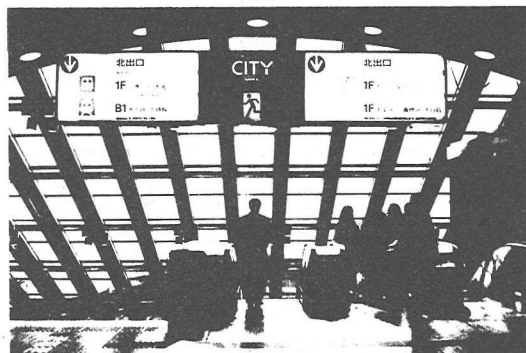


写真5 南海電車コンコース（エリアA）



写真6 大阪市営地下鉄コンコース（エリアB）

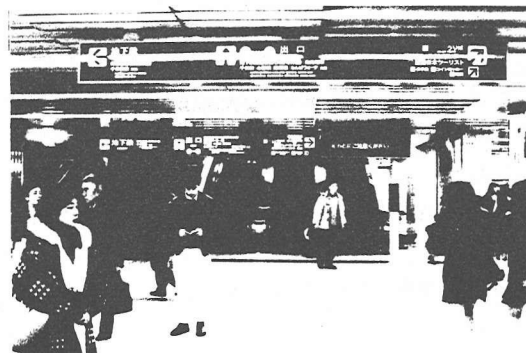


写真7 近鉄電車東側コンコース（エリアC）



写真8 なんばウォーク（エリアD）

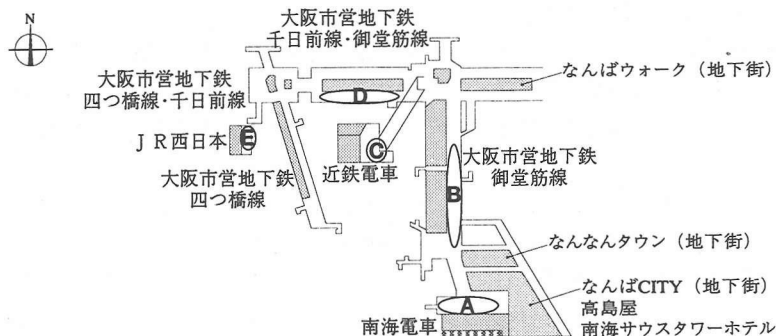


図-2 難波ターミナル駅構成図

4. 調査結果に対する考察

(1) 旅客案内サインの課題

わが国のターミナル駅の旅客案内サインは、鉄道事業者の管理区域区分に従ってそれぞれのエリアをそれぞれの事業者が独自に計画し設置を行っている。

この結果利用者は異なる情報（メッセージ）エリアを横断的に移動することになるから、情報を連続的に得ることができない。

語句の使用基準についても、同一のターミナル駅に係わる事業者間で整合がみられないから、利用者は判断の拠りどころを失って方向感覚を失う。

またほとんどの鉄道事業者の情報表示基準は、自社の改札口と自社施設を強調して誘導案内する内容になっているから、利用者からみると当該エリア外の路線の改札口や諸施設についての情報は見つけにくい。

さらに複合施設や駅周辺の都市施設に関する情報の表示についても、その定めのない事業者が多く、あってもターミナル全域に表示されることがないので有効な情報源になりにくい。

(2) 空間条件の課題

わが国のターミナル駅では、急激な都市機能の拡大に伴って性急な複合整備が行われたことから、継ぎ足し、あるいは割り込み的な駅構造が多く、その結果非常に複雑な空間構成になっている。人間が移動するうえで障害がより少ないのは、短絡的に辿り着ること、あるいは目標が見えていることであって、空間の複雑さがわかりにくさの重要な要因になっている。

また多くのターミナル駅は、壁や階段、独立柱等によって空間が分断され、全域的に一望できるスケールを超えている場合が多いから、風景を視認することができない。風景がないことも情報を得られないことと同義で、駅のわかりにくさの要因になっている。

空間のわかりにくさと表示情報の必要量には相関関係がある。遠くであれ目的施設をそれと認めることができれば、中間に媒介する表示情報を削減することができる。その関係性についてさらに今後研究を進める必要があるように思われる。

5. 結論

この小論では、大都市ターミナル駅のサンプルとして池袋ターミナル駅と難波ターミナル駅を取りあげ、旅客案内サインの表示状況について現状調査を行い、その結果を考察してきた。これにより以下の点が明らかになった。

- a.ターミナル駅における旅客案内サインは、個別の鉄道事業者にとらわれずに、ターミナル駅全域を一体的な都市施設とみなした都市計画的な視点による体系的な研究が必要である。
 - b.表示情報内容に関する要点は、ひとつのターミナル駅内に結節する各鉄道路線の相関関係を対等に取り上げることと、鉄道駅と都市との関係性を明瞭にすることである。
 - c.全ての利用者が求める情報を限定された空間の中に、全て表示することは不可能である。より多くの利用者が必要とする順にならって、情報表示に関するプライオリティの設定が必要である。
 - d.ターミナル駅内のどこかに表示されていても、利用者に情報として伝達されているとは限らない。“見え”の問題として、情報表現の方策に関する研究が必要である。
 - e.今回の調査サンプルでは明らかにできなかったが、ターミナル駅の空間特性と表示情報の必要量の関係について、何らかの法則性を明らかにできる可能性がある。
- これらの研究を進めることによって、ターミナル駅の利便性及び快適性に資する体系的なサインシステムの構築を今後の課題としたい。

参考文献

- 1) 財団法人交通アメニティ推進機構：「アメニティターミナルにおける旅客案内サインの研究」1996年
- 2) 赤瀬達三・横田保生：「Designing Signs Vol.1 公共空間のサイン」1994年 六耀社
- 3) 赤瀬達三：「インテリア大事典／3-9-10サイン計画」1988年 彰国社
- 4) 赤瀬達三：「サインとデザインについての考察」1994年 社団法人日本サインデザイン協会 SDA Review No.10